

8 早宮 3・4 丁目町会

(練馬区)

構成世帯数：1,570 世帯（平成 31 年 3 月末現在）

子供からお年寄りまでが楽しめる企画で新規加入も促進

小学校を会場に「早宮まつり（わくわくどうぶつむら）」を開催

●ポイント

- ・町会活動で地域の魅力を高めていく。結果的に新規加入につながると考えている。
- ・「早宮まつり（わくわくどうぶつむら）」を開催。町会員募集のコーナーを設けた。
- ・町会の掲示板を小学生の活動に役立て、小学校とのつながりが生まれている。

町会の経験がない人を振り向かせる工夫が必要に

「昔は大半が農地で、農地の中に宅地があったが、今は宅地の中に農地が残っている状況で逆転した」と練馬区の早宮 3・4 丁目町会会長は地域の変貌ぶりを説明する。一帯には農地が残り、今も新しい戸建住宅が増え続けている。有楽町線と大江戸線の 2 本の地下鉄を利用でき、閑静で住みやすい住宅地となっている。

「大きな困りごとはないが、商店が少なく、住宅街なので交流を図ることが難しい。何か起きた時の隣近所の助け合いなど、公助と自助の間をつなぐことが町会の役割であり、課題だと考えている。子供の虐待問題なども、近所のつながりがあれば気づくことができる」と会長は町会の役割について説明する。

「新しく来た人たちをどう町会に入れるかで苦労している。前に住んでいたところで町会に入っていた人は、こちらに来て入ってくれるが、町会に入った経験のない人を振り向かせることが必要」と問題意識を持っている。

「昔と違い、今は隣近所でお宅に上がる習慣が失われている。近所づきあいをしてほしいとの思いから、町会では 5～10 軒単位で組を作っている。町会会館の 2 階に集まれる部屋を用意しているので、年に 1 回でもお茶会などをして活用してほしい」とのことだ。

地域の魅力を高めることで加入世帯が増えていく

また、新規加入者を増やす取組については、「町会活動で地域の魅力を高めていくことで、結果的に新規加入世帯が増えていくと考えている。新規加入の獲得が町会活動の目的ではないので、順番を間違えないようにしていくことが大切」（会長）と考えている。

とはいえ、新規加入の勧誘に手を拱いているわけではない。「緑とやさしさの町 早宮」というタイトルで、町会年間行事もわかりやすく紹介した入会申込書を作り、全所帯に配布。驚くような反響はなかったが、入会のきっかけになっているという。

子供からお年寄りまで皆で楽しめる「早宮まつり」を開催

東京都の「地域の底力発展事業助成」を活用して令和元年（2019年）11月3日に早宮小学校を会場に開催した「早宮まつり（わくわくどうぶつむら）」では、白ヤギや犬、モルモットなど様々な動物とふれあえる「ふれあい動物園」を開設し、吹奏楽演奏、スーパーボールや輪投げなどの子供向けゲームなどを実施。さらに、フリーマーケット、近隣に農家が多いことから地場野菜や花の販売なども盛り込み、町会員募集のコーナーを設けた。

まつりには、地域の人たちが家族で訪れるので、町会の活動を知ってもらう良い機会になり、この時は20世帯が新規に入会した。子供たちが動物に触れることで情操教育になり、多くの人たちが集まり住民同士が楽しく交流する場にもなっている。

更に、まつりとは別に、小学校で子供たち（小学5年生）が地域のことを学ぶ際に、町会のメンバーが協力して講師の役を務めている。逆に、子供たちからは、「学校の運動会などのことを知らせたいけれどどうしたらいいか」と意見が出て、町会の掲示板を活用することになった。早宮小学校の校長と町会長が地域について意見を交換するなど、交流が深まっているという。

「将来、早宮がふる里であることを、誇りをもって語れる大人になってほしい」と会長は言う。

コロナ禍で対応を検討

「新規加入者を増やすためにも、まず日頃の町会活動をしっかりさせていくことが大切」と会長。「令和2年度（2020年度）はコロナ禍で活動ができなかった。「今回は初めてのことでやむを得ないが、令和3年度（2021来年度）については、何か1つの催しでも実施するとか縮小しても実施するとか、工夫が必要と思う」と新たな対応を検討している。



農地が広く残る早宮3・4丁目町会の一角。新しい住民が増え、新旧の住民の交流も課題となっている



手書きの温かみのあるイラストを採用している申込書「緑とやさしさの町 早宮」



申込書の中面には町会の取り組みを紹介